

“おいしい”も“たのしい”もまるごといっぱい幸せキャンプ

- 趣 旨：親子で様々な体験活動にチャレンジする機会を提供し、親子の絆を深める。保護者には子育てについて考える場を提供するとともに、ゆるやかなネットワークの構築を図る。
- 日 時：平成29年3月 19日(日) 13:30
～20日(月・祝) 12:00
- 場 所：国立淡路青少年交流の家
- 対 象：子どもとその保護者 15組、50名程度
- 参加者：24家族68名(保護者32名、子ども36名)

6 プログラムの内容：

1日目

13:30～開会・スタッフ紹介・「親ちゃれ運動会」～

リピーターのご家族も19家族あり、互いに「またお会いしましたね」などと気軽に挨拶する姿が見られた。今年度最後の親子ちゃれんじということで、顔なじみになった家族同士で親しく話す光景も見られるなど、2日間のイベントを楽しみにしている様子が伝わってきた。

今回はボランティア自主企画の親子ちゃれんじであるため、司会進行も全てボランティアスタッフが行った。スタッフの紹介を終え、5つの班に分かれて「親ちゃれ運動会」が始まった。風船リレーやしっぽ取りでチームメイトを確認し、子ども種目の「借り物競争」と親子種目の「障害物競走」で楽しく汗を流した。特に障害物競走では、ボランティアが段ボール等を使ってコースづくりを工夫し、親子で協力しないと進めない仕掛けになっていたため、保護者も楽しそうな様子であった。各種目の得点も、幸せキャンプにちなんで『ハートポイント』と名付けたことで、子どもたちも得点が入るのを嬉しそうに見ていた。



15:30～野外炊飯「スコープ焼きそばづくりにちゃれんじ～」

夕食の野外炊飯では、スコープでかき混ぜる焼きそば作りに挑戦した。大きなスコープに驚く家族もいたが、初めての体験に興味津々の様子がうかがえた。ここではリピーターの家族が素早く火をつけたり、片付けをしたりするなど、その手際の良さに目を見張るものがあった。子どもたちも手で野菜をちぎったり、包丁に挑戦したりと、年齢に合わせて一生懸命に手伝いをしていた。また、デザートのパナナと残った火で「焼きバナナ」を作る家族がいるなど、自分たちで料理をアレンジし、野外炊飯を満喫することができた。



18:00～親子分かれての活動～

夜の活動は、親子で場所を分けて実施し、子どもたちはボランティアスタッフのお兄さんやお姉さんと絵本を読んだり、カプラで遊んだり、楽しいひとときを過ごした。

一方、保護者は別の部屋に集まり、「交流会」として子育てについての情報交換を行った。「私の街のオススメスポット」の紹介や、「家族のルールにどんなものがあるか?」、「子育てについてパートナーに求めるものは?」の3つについて話し合った。それぞれのファミリーによって価値観や家庭でのルールが異なるため、多様な意見が出て、参加者にとって貴重な情報収集の時間になった。父親チームと母親チームに分かれて意見交換を行ったため、それぞれ話が盛り上がり、話が尽きないといった様子であった。



2日目

9:00～クラフト「インテリアづくりにちゃれんじ」～

ウェルカムボード・表札・鏡の中から作りたいものを選び、自然物やビーズなどで飾ることでオリジナルインテリアを作った。クラフトの時間の前半では交流の家と隣接している吹上浜に、飾りの素材となるものを調達しに行った。想像を膨らませながら、貝殻や流木、石など思い思いの材料を集めていた。クラフト後半は持ち帰った材料をホットボンドを使って貼り付ける作業を行った。子どもだけでなく、大人も熱中するクラフト活動は、これまでの親子ちゃれんじでも好評であり、今回のインテリアづくりも「もっと時間が欲しかった」と言われるぐらい盛り上がりがあった。

作成後、展覧会を開き、それぞれ気に入った作品のそばに「ハートポイント」を置くなどして、手作りで温かみのあるインテリアが数多く生まれた。



11:00～「お手紙交換会」～

親ちゃれんじ最後の活動では、親子のお手紙交換会を行った。まず、親子別々の場所でお互いにプレゼントする手紙を作った。子どもたちの手紙は、今回の幸せキャンプでパパやママと一緒に楽しんだことについて書かれている手紙や、絵で表現しているものがあるなど、自分なりに親に伝えたいことが詰まったものがあった。

一方保護者の手紙は、我が子が喜ぶように飛び出す絵本のような手紙にしたり、のりやハサミを駆使して、時間の許す限り手紙づくりに励んでいた。また、この1年間で6回実施された親子対象のキャンプをふりかえりながら書いている人もいて、子どもが1、2、3回と親子ちゃれんじへの参加を重ねるたびに成長してくれていることを手紙で褒めてあげる人もいた。

その後の、手紙を読み合ってから交換する時間では、親の手作りの手紙にとっても喜ぶ子どもたちの様子や、子どもが作ってくれた素直な手紙に涙をにじませる保護者も少なくなかった。交換の時間は周りで見ている我々職員ももらい泣きしてしまいそうなほど、心温まるひとときとなり、今年度の締めくくりとしてふさわしい雰囲気で見送ることができた。



7 参加者の声

- （初参加のファミリーから）また来たいという意見をもらった。 ○スコップ焼きそばがおいしい経験になった。
- スコップの大きさにビックリした。 ○ボランティアの皆さんが一生懸命考えてくれて、楽しめました。
- 「これまでの親ちゃれんじの中で一番よかった」という声が多数寄せられた。

8 所感

年度末にもかかわらず、多くの参加があり、親子ちゃれんじも恒例のイベントになってきた。ボランティアスタッフが本当に一生懸命に準備や運営をしたことと、それを温かく受け入れてくださった参加者の方々のおかげで、心がほっこりする親子ちゃれんじとなった。リピーターのご家族が初参加のご家族をうまくリードしたり、サポートしたりする様子も見ることができ、来年度予定している「親ちゃれんじファミリー制度」の見通しが立った。ボランティアスタッフにとっては、事業の企画段階から携わることができたことが、今後の活動への有意義な経験となった。